

第25回SEA教育ワークショップ2011

テーマ:現場指向の教育、確実な行動を保証する教育はどうしたら実現できるか

主催:ソフトウェア技術者協会(SEA)

運営:教育分科会(SIGEDU)／共催:名古屋支部

実施報告書

1. 開催概要

私たちソフトウェア技術者協会(SEA)－教育分科会(SIGEDU)－は、わが国をはじめ、グローバルな情報通信社会におけるソフトウェア技術者、情報処理技術者の育成、教育について、官民、産学を問わず、広く各方面の方々と共に考察、検討を重ねてきております。

昨今の厳しい社会状況を目の当たりにした私たちには、教育に対する実質的な成果がより厳しく求められていることを強く認識せざるを得ません。福島原発のように、結果として有事に際して最適な行

動が起こせなかった事実を見れば、最悪の事態を想定しての訓練がいかに難しいとは言え、果たして的確な訓練がなされていたのかという疑問はめぐいきれません。

有事を想定しての教育がどうあるべきかは、企業の経営者だけの課題だけでなく、教育担当者の課題でもあり、現場を的確に把握し、如何に教育に反映できるかが真に求められていると言えます。こうした時代の要請に応えるにはどうしたら良いか、また、経営者から常に期待される教育費用対効果をいかにして具現化

させるか、さらには、教育効果を維持・向上させるためのノウハウが蓄積でき、それが教育担当者個人の能力から組織全体の能力として継承できるようにするにはどうしたら良いかといったいくつかの質問は、私たち教育に携わる者に突きつけられた現実の課題ではないでしょうか。(開催案内から抜粋、写真提供:内田さん)

年間計画では、10月27-29日の開催予定でしたが、常連数名の都合がつかなくなり、変更することになりました。実行委員長とプログラム委員長については、第24回と同じく、牧野@バルトソフトウェアと米島@NECネットエスアイのコンビが担当することになりました。会場の選定にあたっては、震災の影響や、世間情勢を考慮して、関東と関西の中間点に近い愛知県の中から、会議室を含む研修パックが利用できる、西浦温泉“たつき”と決定しました。

初参加が1名、復帰が2名、あとは常連で合わせて10名の方に参加していただき、深夜まで激論が続きました。特に二日目のオフレコセッションは、プロジェクトを部屋に持込み、壁に投影しながらの白熱した議論は、SIGEDUならではです。(まきの)



2. 日程

2011年10月20日(木)PM～10月22日(土)AM

3. 会場

愛知県蒲郡市西浦温泉 ホテルたつき

〒443-0105 愛知県蒲郡市西浦町大山25番地 TEL.0533-57-5111／FAX.0533-57-5118

<http://www.tatsuki-aoi.com/index.php>

4. 参加者一覧

氏名	会社・大学	所属・役職
鈴木 克明	熊本大学	大学院教授システム学専攻 教授
米島 博司	NECネットエスアイ(株)	ネットワークサービス事業本部事業企画室人材開発部 教育課長
君島 浩	教育設計研究所	
豊永 正人	(株)日立ソリューションズ	人事総務統括本部教育部 主任インタラクタ
内田 実	LBS研究スタジオ	代表
森泉 清	リコーテクノシステムズ(株)	経営統括本部経営革新室
牧野 憲一	バルトソフトウェア(株)	業務革新マネージャー
山崎 進	北九州市立大学	国際環境工学部 講師
中山 照章	(株)富士通ソーシアルサイエンス ラボラトリ	ビジネスマネジメント本部総務部 専任部長
井ノ上 憲司	熊本大学	大学院教授システム学専攻 特定事業研究員

実行委員長	: 牧野 憲一	バルトソフトウェア(株)
プログラム委員長	: 米島 博司	NECネットエスアイ(株)

5. プログラム

月日	日時	時間	セッション内容	発表者(担当者)	司会進行役
10月 20日 (木)	13:00	—	集合場所: ホテルたつき”コンベンションホール”(本館2F)	—	牧野 憲一
	13:30	30	オリエンテーション、自己紹介、Session 調整	—	米島 博司
			第1部		
	14:00	60	テーマ「議員勉強会用: 防災等施策の改善」	君島 浩	森泉 清
	15:00	10	休憩	—	—
	15:10	60	テーマ「コミュニケーションコンテンツ開発の考え方」	内田 実	鈴木 克明
	16:10	10	休憩	—	—
	16:20	60	テーマ「オフィスのIT環境ビジネス」	森泉 清	山崎 進
	17:20	70	休憩(入浴可)	—	—
	18:30	120	夕食(懇親会)	—	—
	20:30		オフレコセッション(1)		
月日	日時	時間	セッション内容	発表者(担当者)	司会進行役
10月 21日 (金)	8:00	—	朝食	—	—
			第2部		
	9:00	60	テーマ「教えない研修を目指す研修設計マニュアル」	鈴木 克明	井ノ上 憲司
	10:00	10	休憩	—	—
	10:10	60	テーマ「授業設計とグループ学習のソフトウェア工学教育への適用」	山崎 進	豊永 正人
	11:10	10	休憩	—	—
	11:20	60	テーマ「ゲームニクスとID を用いた LMS ユーザビリティの向上」	井ノ上 憲司	中山 照章
	12:20	60	昼食	—	—
			第3部		
	13:20	60	テーマ「演習科目の方略と反応」	豊永 正人	米島 博司
	14:20	10	休憩	—	—
	14:30	60	テーマ「訓練重視の新入社員教育へ」	牧野 憲一	君島 浩
	15:30	120	リクリエーションセッション		
	17:30	50	休憩(入浴可)	—	—
	18:30	120	夕食(懇親会)	—	—
	20:30		オフレコセッション(2)		
月日	日時	時間	セッション内容	発表者(担当者)	司会進行役
10月 22日 (土)	8:00	—	朝食	—	—
			第4部		
	9:00	60	テーマ「小説「下町ロケット」の特許戦略について」	中山 照章	内田 実
	10:00	10	休憩	—	—
	10:10	60	テーマ「企業内技術者育成の取り組み」	米島 博司	井ノ上 憲司
	11:10	10	総括	全員	米島 博司
	11:30	60	昼食後、解散	—	—

6. 参加者感想(敬称省略、発表順)

■ 君島 浩(教育設計研究所)

4月から定収入がなくなりました。しかし、この教育ワークショップだけは欠席するわけにはいけないと思って参加しました。大震災や不況のわりには参加者が10名になり、良かったと思います。

私のホテル評価は施設はメンテ不足だが風呂は良、食事は時によって優だったり良だったり、従業員は良かったです。



私の発表テーマは、地元の議員さんに勉強会の提案をするカタログです。それを本番前に、このワークショップでレビューしてもらいました。組織の3階層の図を繰り返し使ったことを、中山さんから褒めてもらいました。

勉強会の話題の一つとして、静岡県で起きた川下り船の転覆事故の原因分析を含めました。ワークショップが終わってから現地調査に行き、インターネットで新たな論文を発見した結果、私の究明した原因は間違いだったと分かりました。

「これでバグはなくなった」とは言えないですね。今回は叩きがいのある発表が少なかったのが特徴です。いつもと違って枯れた内容の発表が多かったのでしょうか。会社で新しい仕事がありません、ということなのかも知れません。

ほかの人のコメントと私のコメントは傾向が違います。私は社会とか将来のために物事を判断する傾向があると思います。自分とか自社という感覚がありません。ほかの人は現役のせいか、自分の会社とか現在などの視点で判断する傾向があると思います。年齢や性格や社風の違いでしょうか。人はさまざまです。そもそも私は感情的にはなりません。たまにはなりましたが。

キャリアとは何かの認識が分かれました。私はどんなことでも理論や技法がないか探します。自分でキャリア(経歴)とは何かを考える前に、経歴理論や経歴技法を探します。経歴とは履歴書に書くような学歴項目や職歴項目の一次元リストです。経歴技法は候補となる有効グラフの中からは自分の一次元リストを選ぶ技法です。候補となる有効グラフとは、過去の先輩たちの経歴リストを重ね合わせた集合です。これと似ているのは富士通などで教えてきた技術の流れ調査技法ですね。とても似ています。

ですから、この次にどこへ就職するかを決めるのは1次元リストの要素の決定であって、経歴技法とは言えません。就職面接用の会話技法は就職技法であって経歴技法ではありません。こんな風に考えるのも人さまざまです。それにしても採用枠が減少しているのですから、経歴技法だろうが就職技法だろうが、失業者になることを避けることは困難です。年金支給開始年齢の改定、あるいは定年延長などなど、採用枠があるものならやっとなさいと言いたいです。富士通が私を再雇用しますか。ありませんよねえ。国内自給のために農業のバイトでもしましょうか。

■ 内田 実(LBS研究スタジオ)

仕事の契約もなくなり、セミナーの予約も切れてしまい、あまり世間との交渉がなくなってきました。そのような状態で、ワークショップに参加し、皆さんの活発な活動を聞かせていただき、私ももう少し頑張ろうかと再考しました。

コミュニケーションのコンテンツをネタに、本を書こうかと考えていましたが、皆さんから「分析不足」といわれ、その通りだと納得してしまい、こちらのほうも再考が必要です。

仕事がないと、付き合いの範囲が急に狭くなります。今回のワークショップで、また、少しだけ世界が広がった気がしました。やりたいことだけは沢山あるので、それを一つずつ実施して行こうと再決心できたワークショップでした。

実行委員の方、参加された方、ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。



■ 森泉 清 (リコーテクノシステムズ株式会社)



教育部門から離れ 3 年になるがどのような仕事をしていても話題に上がるのは人の能力の問題である。

しかし、人の問題となると直ぐに育成・教育が必要と考えるが、この分科会の良いところは教育分科会でありながら教育を一番最後に考えることを一貫していることにある。それが一番の魅力であり毎年参加してる理由でもあるが自分の題材が育成の題材が少なくなり皆さんに叩いて頂ける題材が無く残念であった。

来年こそは皆に叩いていただける題材で参加しようと思
いますのでその際は宜しくお願いします。

■ 鈴木 克明 (熊本大学)

毎年お世話になっております。遠慮なく、ストレートに問題点を指摘し、「こうやったらもっとよくなるのではないか」というアイデアを開陳できる数少ない研究会で、今年も楽しませていただきました。

小生の持ち込んだのは「研修設計マニュアル」の目次案と内容についての構想でした。V 字を上流から攻めるのか、それともある研修を取り上げてボトムアップで臨むのか。二つのアプローチについて議論してもらい、方向性が固まりました。アイデアを拙著の構想のために惜しげもなく下さった参加者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



ところでこの本は、絶賛発売中の「教材設計マニュアル」(2002年発刊)と近年少しだけ関与した(でも共編者として名前を出してもらった)「授業設計マニュアル」に続く第三弾として準備中のものです。なるべく教えない研修をキーワードに、戦略的人材開発に資することができる教育担当者はどのように発想すべきかを書いてみたいと考えています。どうぞご期待くださいませ。

最後に、様々な研修事例を見るための着眼点として、次の6つの質問が良いのではないかと最近思っています。それを共有して感想にかえます。

- (1)何を(誰に)教えているのか: 出入口
- (2)それは何故か: ニーズ分析
- (3)どうやって(いつどこで)教えているのか: 教授方略
- (4)それは何故か: 方略の理論的根拠
- (5)良い・ダメな研修と考えるのは何故か: 評価の視点
- (6)その証拠は何か: データ収集・結果責任

■山崎 進(北九州市立大学)



今回、お誘いを受けて sigedu 研究会に初参加しました。噂に違わぬ密度の濃いワークショップで、とても得るものが大きかったです。

私は大学におけるソフトウェア工学教育に関して、さまざまな問題意識を持って参加しました。ソフトウェア工学をどう教えたらいいのか？ 私の授業設計は適切なのか？就職した後も役に立つ知識・経験とは？大学のあり方とは？

参加した方々は、企業で研修プログラムを設計・実践している方々、教育を研究として取り組んでいる先生方、新進気鋭の博士課程の方でした。私の素朴な問題意識に対する辛口だが建設的な意見を多数いただき、たくさんの「おみやげ」を持ち帰ることができました。改めて感謝します。

■井ノ上 憲司(熊本大学)

本年度から長崎大学より熊本大学に戻り鈴木先生の元で武者修行(博士論文)の最中です。

ワークショップ参加は第20回の熊本阿蘇以来なので5年ぶりでしたが、いつも通りのパワフルなメンバーの皆様とお会いして、SIG-EDUの雰囲気やすぐに思い出すことができました。

時間の制限の厳しい学会では、なかなか味わうことのできない濃い議論、鋭い指摘や疑問の投げかけ、為になります。教育とソフトウェアだけでなく、社会情勢や雇用や仕事の考え方などにも幅広く対応していくところがもう一つの魅力のような気がします。

私の発表は、博士の研究テーマである「ゲームニクスとIDを用いたLMSユーザビリティの向上」です。eラーニングを支えるLMSがなかなか普及しない要因として、教員が使用する際に「使いにくい」と感じたり、「教育効果」のないものになったりすることで、eラーニングの良さを感じられないからであるという考えを元に、「ユーザビリティが高く」「教育効果が高い教材が出来る」ユーザインタフェースを開発することで解決したいという研究です。

ユーザビリティの向上のためにゲームニクス理論、教育効果の担保のためにID理論を用い、それぞれに準拠した操作ができるインターフェースを教員画面に搭載するものです。



発表では、ゲームニクスやユーザインタフェースの根本的な疑問から、「使いにくい」などの曖昧な表現をどうやって表現するかというところまで、数多くのご指摘を頂き、ソフトウェア開発現場に近い方々であっても理解しにくい面があることを実感できた次第です。

課題も見えた反面、研究テーマ自体の重要性(潜在的需要)も感じられるので、早くすべてを実現して、私のやりたかったことを実物化して皆様にお見せできたと思っています。様々なご意見頂きましてありがとうございました。またよろしくお願いします。

■豊永 正人(株式会社日立ソリューションズ)

第25回ワークショップ参加の皆さま、実行委員長、プログラム委員長をはじめ事務局の皆さま、大変お世話になりました。企画から実施直前の個別案内、現地で実施、その後のフォローに至るまで手際よく、いたれりつくせりの運営ありがとうございます。快適で愉快的な三日間を過ごし大変しあわせです。

セッションの合間、三河湾の穏やかな表情に浮かぶ島の遠景に目を休ませ、海辺の散策あり、すこし山



登りもあり、後のビールも爽快でした。夜遅くまで白熱の議論に「今年も来て、しまった！」と思うと同時に「また来年も来よう」と、決心はゆるぎません。

現在の状況について、なかなか知りえないような具体的なお話を聞き、環境が急激なスピードで変化するとは、まさにこのこと、と感じました。そのスピードに負けないよう、自らの仕事においても発案から実施に至る時間短縮の意味でこれまでよりも一層スピードアップを求められているように思いま

す。

今回、演習科目の方略について直しの実施を視野に入れた手順を述べました。実施要領の操作定義は時間の問題でできそうです。しかし、まだ答を見出していない課題もあります。未知との遭遇を、そして、再び皆さまとご一緒する機会を励みといたします。また来年もよろしくお願いします。

■牧野 憲一(バルトソフトウェア株式会社)

昨年の和歌山ワークショップ(以降、WS と表現)でのアドバイスを受けて、新入社員教育を変革した報告をしました。変革に当たっては、知識の習得だけではなく、得た知識に基づいて”手足が動かせる”こと。すなわち”訓練”を重視して改革しました。変革内容についてはスライドを pdf 化して公開(発表スライドとは多少異なります)しているので省略しますが、検討経過から実際に実施した新入社員教育までを報告しました。



準備したスライドの枚数多過ぎたこと、参加者からの突っ込みどころを予め準備するのを忘れ、ひたすら発表に徹したところが、一番の反省点です。報告したいことは伝わったとは思のですが、自分自身でも面白みのないスライドだなあと反省しております。次年度？は、突っ込みどころ満載で臨みたいものです。

初参加の山崎先生(北九州大学)が、大学と企業との接合(就職)を強く意識されていることを知りました。私は、インターンシップや採用から新入社員教育まで、幅広く接点を持っているので、お互いの領域のこと

をもっと知ること、双方のつながり(接合)が今以上に向上するのではないかと予感がしました。この先も情報交換を進めて、双方の良き改善に繋がればと願っています。

井ノ上さんの論文課題を通じて、博士課程の一部を垣間見たような気がしました。井ノ上さんの論文には、複数の重要なキーワードがあって、各々が有機的に繋がっているのだと思いますが、残念ながら繋がりが私の頭の中で整理できませんでした。同じように、井ノ上さんもまだ整理途中なのかなと感じる部分が多く、スライドにどれだけ盛り込むかは別にしても、もう少し深堀による関連付けが必要かと思いました。そしたら、アドバイスに対して的確な意思表示ができるようになるのでしょう。偉そうなことを言ってしまう。どんな論文が完成するか楽しみです。頑張ってください。

他にも興味深いネタばかりのWSでした。参加者の皆さんの共通点は”理論に基づく実践”です。そう意味でも、次年度のWSに向けて、何か新しい勉強をしなければと心を新たにしました。

■中山 照章(株式会社富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ)



10数年ぶりに sigedu ワークショップに参加させていただきました。社内教育の仕事からは20年以上遠ざかっているため、話題についていけるか心配でしたが、皆様にあたたく迎えていただき、3日間を楽しむことができました。教育に関する持ちネタがなく、特許に関する話題提供になりましたが、皆様に熱心に聴いていただき、sigedu の度量の広さに改めて感激しました。

話題にした池井戸潤の小説、「下町ロケット」は企業間の特許紛争をテーマのひとつにしていますが、関係者の行動がドキュメンタリータッチで描かれており、真に迫るものになっています。これにより、各企業の特許戦略が次第に明確になっていきます。また、後半の新技開発にける技術者の姿が自分達の姿と重なって感動させられ、勇気をもらえます。

まだ読んでいない方にネタバレしてはいけないので、詳しい話はできませんでしたが、是非読んでいただきたい1冊です。

表紙と裏含めてたったの7枚のプレゼン資料で30分持たせました。さすがに時間が余ったので、オマケに、スタンフォードのティナ・シーリグによる「起業家育成コースの集中講座」について少し紹介しました。やはり教育専門家の sigedu で大変盛り上がりました。あとから考えると、こちらの方を中心にして、この講座をIDで分析したらどうなるか、自分でこの講座を実施するための設計書を書けばよかったなと反省しています。

恒例のオフセッションでは、sigedu ワークショップでなければ聞けない面白くてためになる話がいっぱいでした。

宿泊施設は広くて、美味しい食事が山ほど出たので、たった3日間でOKg 増えました。以上、久しぶりに懐かしい人たち、若い人たちに会って、思う存分話ができて、10年分ぐらいリフレッシュして帰りました。皆さんどうもありがとうございました。

■米島 博司(NECネットエスアイ株式会社) プログラム委員長

●はじめに

第25回目を数えた教育ワークショップは、私自身も第12回(南紀白浜)以来、13回目の参加となり、

開催回数の半分以上を超える古株となってしまった。

常連、コアメンバーの参加が多いのはいつもどおりだが、今回は南紀白浜以来の久々の参加となる中山さん、また Facebook で知り合った山崎先生の初出場と、新風を感じる開催となった。

三河の丘陵を背に、三河湾の湖水のような穏やかな海を前に議論も伯仲し、なんとも幸せなひと時を過ごすことができた。



● セッション編

(第一日目)

▶ 君島さん「議員勉強会用：防災等施策の改善」

恒例の君島さんのお得意の最新情報を盛り込んだ話題三点、高齢者、防災、教育と相変わらずの鋭い舌鋒での切り込みだ。日米の教育委員会のありようをみると、ぞっとする思いがする。

君島さんは最近、医療関係の教育にも進出されているが、その辺の状況も次回期待したい。

▶ 内田さん「コミュニケーション力コンテンツ開発の考え方」

コミュニケーションの定義に話題が及び、機会や人の間の情報伝達を思い描き、人間におけるコミュニケーションとは、言葉や伝達のための媒体を通して、相互の想いや意図を理解する際の「ずれ」を認識し、共通の理解に整えていく作業のことだと理解すると非常に分かりやすいと思った。

こう理解すると、コミュニケーションを実現する際の人間の行なう各作業、機能などを明確に説明できるような気がする。

▶ 森泉さん「オフィスのIT環境ビジネス」

複写機、ネットワーク機器の保守サービス事業のあり方について考えていて、近い将来の情報ネットワークや、職場や家庭の情報端末機器がどうなるんだろうと妄想がどんどん広がりとっても楽しかった。森泉さんの会社の事業内容も、今後、急激に姿を変えて行くのだろうなあ、期待を新たにしたい。

▶ 鈴木先生「教えない研修を目指す研修設計マニュアル」

近い将来刊行される予定の ID マニュアルの目次案を2種類提示され、参加者のコメントを求められた。対象者が複数種類想定されることから、読者別に呼ぶ順番を任意に決めることが出来るようガイドを示したら良いと思った。

▶ 山崎先生「授業設計とグループ学習のソフトウェア工学教育への適用」

初出場の山崎さんには発表ネタが沢山あるということで、ご自分の発表の前にオフレセセッションに登場していただくことにした。

学生の在学時代の学習は勿論のこと、卒業後、学習した内容をいかにして活かす事が出来るかまでを親身になって考え、ID を駆使した授業設計に取り組まれている姿を拝見し、大変感動した。

また、今回の参加が参考になったとの感想をお聞きして、今後の sigedu での活躍を期待してしまった。よろしくお願いしますね。

▶ 井ノ上さん「ゲームニクスと ID を用いた LMS ユーザビリティの向上」

ドクター論文のネタをたたくというノリのせいか、参加者からのコメントが殺到し、場内乱闘の危機か、と案ずるくらい多くのアドバイス、助言、文句、いちゃもんが出た。

宿題をたくさんもらった井ノ上さんは幸せ者かどうかは知らないが、次回の進捗報告が一段と楽しみになった。みんなから愛される人格は大切に、さらに鍛えられて大きく成長されることだろう。

▶豊永さん「演習科目の方略と反応」

グループ学習の効果、効率、メリット、デメリットを頭に思い浮かべながら発表を聞いていた。完全セルフペースの研修形態を一度体験すればさらに違ったアプローチが見えてくるのではないかと思った。

▶牧野さん「訓練重視の新入社員教育へ」

昨年、第24回ワークショップには、バルト社からトップ、教育担当、受講者と、会社ごと引っ越してきたかのように参加していただいたが、そこで出た提案を今年の新入社員教育へ反映した報告であった。

計画性や昨年の提案をことごとく反映した(かのように見える)実施内容は、突っ込みどころがなく、参加者の「突っ込みたい欲求」を一気に急上昇させるものであった。

昨年のWS終了後すぐに牧野さんに言った言葉「WSでの課題をベースにしたアクションプランはすぐを作るんですよね？」を今年も言うことにしよう。「新入社員の教育の次は先輩社員も含めたバルト社全体の教育の革新なんじゃないかな？」と。

▶中山さん「小説『下町ロケット』の特許戦略について」

知的財産について長年携わってこられた中山さんならではの、多方面にわたる関連情報を提供していただいた。大企業と中小企業、悪徳弁護士事務所と結託した特許争奪の争いなど、現実の赤裸々な事実を拝聴し、唖然とした。

近付きたくはないが、避けて通れない世界だけに他人事ではないなあ実感した。

▶米島「企業内技術者育成の取り組み」

一昨年来の継続テーマの近況報告をさせていただいた。正直、もっと革新的な取り組みの話題を出しなかったのだが、努力の足りなさを反省した。いただいたヒントは今後の検討に反映させます。

●番外編

予想以上の風光明媚な景色に、到着した途端、心身ともにくつろいでいくのを実感した。今年も開催できて、参加できて良かった。宿泊施設に関しては、食事の量や質を初め、期待水準以上のもので安心した。コストパフォーマンスは、過去最高値を記録するのではないと思う。

研修パックの低料金であわびの踊り焼きが出るとは予想もなかったが、あわびが苦手という人が居てそれをせしめて二つも食べた人がいた。ボリュームも全員間違いなく2kgは増量と想像するほどのたっぷりのご馳走で、日ごろの粗食が懐かしくなった。

●感想

一年に一二度のイベントであるが、こうした相互研鑽の場を継続できることの幸福を感じた。実行委員長の牧野さん、ご苦労様でした。今後も出来る限りの事務局運営の支援を出来ればなあ、想いを新たにしたい。

7. WSを終えて

第25回という記念WSの実行委員長を担当させていただけたことに大変感謝しております。この変化の激しい時代に、創業25周年を迎える企業ですら山有り谷有り、苦難の連続だと思いますが、ボランティアベースで運営しているSEA教育分科会の教育ワークショップが25回を迎えることができたのは、本当に素晴らしいことだと思います。これもひとえに分科会創設当時からご尽力いただいた先輩諸氏の努力の賜物だと思っております。

さて、今年度は気が付けば、なぜか実行委員長を担当しておりました。不思議です。5月25日に会場の候補として“たつき”に問合せし、6月10日には、会場として決定したことを伝えています。その後、開催予定を1週間早める連絡をしていますが、結構早い時期に会場を決定することができました。研修パックがとてもお得なので、探してくださった米島さんには感謝です。

昨年改良した“WS管理表”のお陰で、管理作業の効率がかなり向上しています。今年は新たな試みとして、参加者には事前に“WSのしおり”を電子ファイルでお送りしました。パスワードによるセキュリティを確保しつつ、ペーパーレスの実現です。

西浦温泉の最寄駅は、名鉄西浦駅ですが無人駅であり、駅前周辺に飲食店らしきお店がないことから、JR蒲郡駅前で食事をしてから名鉄に乗れるよう、イタリアンレストランを予約しておきました。西浦温泉に直接バスで到着される井ノ上さんを除く9名が昼食を共にすることになり、“セッション ゼロ”がレストランで始まったのでした。WEBで見つけた割引券をちゃっかりと提示し、食事は5%割引いただきました(^.^)

初日は木曜日ということもあり、ほとんど貸し切り状態でした。会議室はねんきが入っていますが、無線LANが利用できて便利です。部屋は1部屋5人なので布団を敷くと狭いですが、特に問題は有りません。露天風呂は海に面しており、ゆったりとくつろげます。食事も盛りだくさん！特に鮑は絶品でした。

二日目の午後の一部で西浦温泉周辺を散策しました。海岸沿いに名古屋城の石垣を切り出した跡があったり、蟹が歩いていたりと、遊歩道の散策を楽しむことが出来ました。アップダウンもあり、腹ごなしにはピッタリです。夏だと海水浴に適した砂浜の海岸もありましたよ。西浦温泉、なかなか素敵です。

今年のワークショップは、ゆったりと時間配分をすることができました。それでも、夕食後も会議室に戻って議論を再開するのですから、教育分科会は本当に異常です。おまけに、プロジェクトを部屋まで持込むのですから信じられません。

各自が発表したスライドはWS参加者限定なので、WEB用に改定したスライドを公開することになります。ご了承ください。

参加者していただいた皆さん、本当にお疲れ様でした。皆様のご協力のお陰で無事に終了することが出来ました。WS終了後も個別に繋がりを持ち、有効な人脈形成ができているようで、実行委員長としては嬉しい限りです。次年度以降も新しい風を吹き込みながら、WSの運営も更なる変革を図り、教育分科会が益々発展することを願って結びとさせていただきます。ありがとうございました。

実行委員長 牧野憲一



8. ワークショップ風景



蒲郡でのイタリアンランチ



名鉄西浦駅(無人駅)



ホテルたつきから見るサンセット



穏やかな三河湾



夕食(懇親会)



海岸沿い遊歩道散策



会議室での激論風景



ホテル玄関(最終日)

9. 発表資料リンク(URL をクリックしてご覧ください) ※発表順

- 君島さん
議員勉強会用: 防災等施策の改善
http://sea.jp/SIGEDU/25th_kimijima.pdf
- 内田さん
コミュニケーション力コンテンツ開発の考え方
http://sea.jp/SIGEDU/25th_uchida.pdf
- 森泉さん
オフィスのIT環境ビジネス
(非公開)
- 鈴木先生
教えない研修を目指す研修設計マニュアル
(非公開)
- 山崎先生
授業設計とグループ学習のソフトウェア工学教育への適用
http://sea.jp/SIGEDU/25th_yamazaki.pdf
- 井ノ上さん
ゲームニクスと ID を用いた LMS ユーザビリティの向上
(非公開)
- 豊永さん
演習科目の方略と反応
http://sea.jp/SIGEDU/25th_toyonaga.pdf
- 牧野さん
訓練重視の新入社員教育へ
http://sea.jp/SIGEDU/25th_makino.pdf
- 中山さん
小説「下町ロケット」の特許戦略について
http://sea.jp/SIGEDU/25th_nakayama.pps
- 米島さん
企業内技術者育成の取り組み
http://sea.jp/SIGEDU/25th_yoneshima.pdf

以上